

3歳児健康診査における屈折検査について

令和5年3月の3歳児健康診査から、スポットビジョンスクリーナー（図1）という機器を導入し、屈折検査を実施します。

子どもの目の機能は3歳頃までに急速に発達し、6～8歳でほぼ完成します。

子どもは見えにくさを自覚していないことが多く、家族も気付くのが難しいと言われています。

ご家庭で行う視力検査と、健診会場で行う屈折検査をあわせて実施することで、異常を早期に発見し、適切な治療につなげることが大切です。

【屈折検査のやり方】

イラストのように、写真を撮るようにして検査機器の光っている部分を数秒見るだけで、両目を一度に検査することができます。



図1 スポットビジョンスクリーナー

【柏崎市の3歳児健診の目の検査】

ご家庭でおこなう検査

- ① ランドルト環（アルファベットのCのようなマーク）を用いた視力検査



- ② お子さんの目に関するアンケート

健診会場でおこなう検査

- ③ スポットビジョンスクリーナー（屈折検査機器）で屈折検査を実施



屈折検査は、カメラで写真を撮るように検査機器を数秒間見るだけで検査ができます。遠視や近視、乱視などの屈折異常と、眼位の異常（斜視）を判別できます。

【子どもの目の発達】

生後1か月はほとんど見えません。

1歳で（約0.2）に、2歳で（約0.4）に視力が発達します。

3歳までに、視力は急速に発達します。

6歳では（1.0～1.2）



特に弱視は、早期に発見し、適切な治療を行うことで改善と言われています。

イラスト 出典：公益社団法人 日本眼科医会「3歳児健診における視覚検査マニュアル」